

※学Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

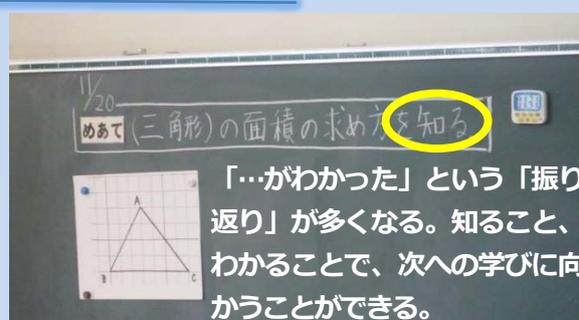
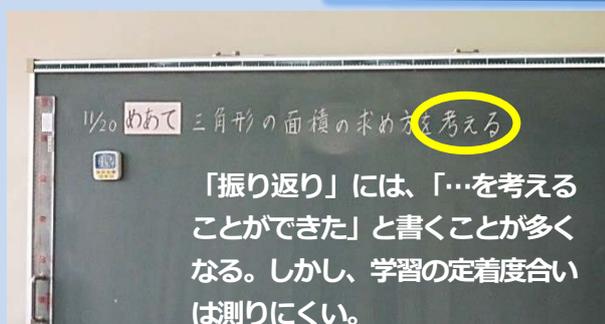
## 「めあて」の中の言葉に意識して

平成29年度の「学校質問紙」「児童・生徒質問紙」を見ると、「めあて」の可視化はほぼ達成しています。しかし、学力向上につながっていない現状があります。そこで、5月8日開催の第1回新任校長研修において、三重大学教職大学院の森脇健夫教授に「授業改善に向けた校長のリーダーシップ」と題してご講演いただきました。そのなかで、授業改善を考える際に大切にされるべきこととして、「めあての提示」について以下のようなお話をいただきました。

### ● 「めあて」づくりは、「逆向き設計」

授業の中で提示される「めあて」が、「教師の視点でつくった授業の『ねらい』を具体化したもの」であり、かつ「児童生徒が自ら振り返ることができる目標」となっているのでしょうか。「めあて」の役割は、**授業を見通す**ということです。「めあて」を提示することで、教師は、授業の焦点化、脱線の修正、時間の管理等をすることができます。児童生徒は、自分の学習について授業の中でも後でも「振り返り」の活動につなげることができます。「めあて」づくりは、**授業が終わった時の児童生徒の「できるようになったこと」「わかるようになったこと」を想定することから始める「逆向き設計」**で考えることが大切です。

#### ● 4年生算数「めあての提示」の例 ●



「～を考える」「～を調べる」といった「めあて」では「振り返り」が曖昧になります。「～が分かる」「～ができるようになる」という「めあて」であれば、「振り返り」が明確になります。「めあて」の言葉に敏感になることで、「主体的・対話的で深い学び」へとつなげることができます。このことを踏まえて、教師は授業づくりをし、校長は授業観察・指導を行うことが重要です。

教師は、「何を学ぶのか」を理解し、結果として「何を学んだのか」を実感できる授業に向けて、これまで以上に「めあて」の中の言葉に意識して取り組むことが必要です。そして、知識の獲得や思考力等を高めたりすることのみならず、常に見通しを立て、学んだら振り返るという姿勢を児童生徒に育みましょう。

### ● 授業づくりを見直す機会に ●

8月29日(水)の新任指導教諭研修では、教員の授業力向上に向けて指導教諭のなすべきこととして、森脇教授にご講義いただきます。指導教諭の皆さん、研修にかかわる先生方、ぜひご参加いただき、各校での授業改善にお役立てください。県総合教育センターWebページ (<http://www.mpec.jp/>) から受講申し込みができます。

# 「割合」の克服に向けて ～自校採点結果を基に考えると～

三重県では、子どもたちの学力の現状を早期に把握し、子どもたちの課題を改善する取組を進め、一人ひとりの学習内容の確かな理解と定着につなげることを目的として、全国学調の自校採点の取組を進めています。自校採点に取り組む学校は年々増えており、各学校における組織的な授業改善の取組の意識が高まっています。

(小 H28:約 54%→H29:約 66%→H30:約 71%、 中 H28:約 40%→H29:約 45%→H30:約 52%)

一方で、自校採点結果から、経年的につまづきが見られる課題は、十分な改善につながっていないと考えられます。今回は、その課題の一つである小中学校の「割合」の問題を取り上げ、自校採点結果から明らかになった状況を紹介します。「どこまでわかっているか」「どこにつまづきがあるか」など、子どもたちの課題を学校全体で共有し、学習内容の定着を図るための授業改善や指導の具体案の検討に役立ててください。

また、各学年の学習内容の積み上げが必要な小学校算数「割合」「図形」について、小学校6年間の学習内容のつながりや指導のポイントを掲載した指導資料「わかる・できる育成カリキュラム」を小学校全教員と中学校に配付します。ぜひご活用ください。

## 小学校で出題された割合に関する問題

算数 A[8] 出題の趣旨  
百分率を求めることができる。

解答類型 3

正答 3(40%)  
正答率 49.8%

ある会場に子どもたちが集まりました。  
集まった子どもたち 200 人のうち 80 人が小学生でした。  
小学生の人数は、集まった子どもたちの人数の何%ですか。  
下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。  
1 0.4%    2 2.5%    3 40%    4 80%

ほぼ同じ問題が  
出題!

| 過去の類題        | 三重県  | 全国   |
|--------------|------|------|
| H21 小学校算数 A7 | 53.0 | 56.9 |

●200 人のうち 80 人が女子のとき、女子の人数の割合は全体の何%かを選ぶ問題 (選択肢は今年度と同じ)

解答類型 1

1 0.4% → 反応率 9.2%

$80 \div 200 = 0.4$   
→ 百分率を用いて正しく表していない

解答類型 2

2 2.5% → 反応率 30.6%

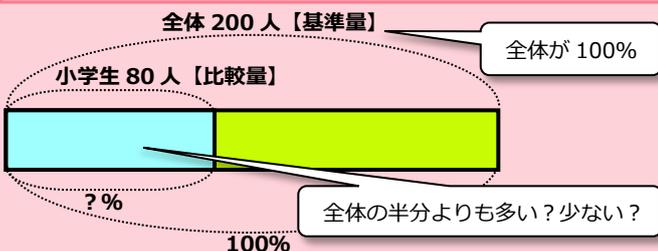
$200 \div 80 = 2.5$   
→ 基準量と比較量を正しく捉えられていない  
・問題で数字が出てきた順に立式したと考えられる  
・もとにする量がわからないと考えられる

解答類型 4

4 80% → 反応率 6.6%

小学生 80 人 → 80%  
→ 人数のみに着目している

◆ 何が比較量で、何が基準量かを捉えることが大切です。指導のときにテープ図を使って、全体の人数や小学生の人数を捉えさせてみましょう。



★ 対応ワークシート

三重の学-Viva!! セット第 10 弾「割合①」「割合②」

## 中学校で出題された割合に関する問題

数学 B[5] (1) 出題の趣旨  
与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるかどうかをみる。

解答類型 1

正答  $\frac{560}{3500} \times 100$   
正答率 9.7%

里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

| S社          |      |
|-------------|------|
| 史跡巡りプラン     |      |
| 1人 3500円    |      |
| 1人 2940円    |      |
| 団体料金の利用可能人数 | 8人以上 |

(1) 里奈さんが作った表 (一部略) から、S社の場合、団体料金は通常料金の 560 円引きであることがわかります。この 560 円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

「割合を求める式」を  
「百分率を求める式」へ  
と問い方を変えて出題

| 過去の類題             | 三重県  | 全国   |
|-------------------|------|------|
| H27 中学校数学 B[5](1) | 37.1 | 39.1 |

落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える問題

解答類型 3

$\frac{560}{3500}$  → 反応率 19.1%

→ 百分率を求める式と割合を求める式の区別ができていない

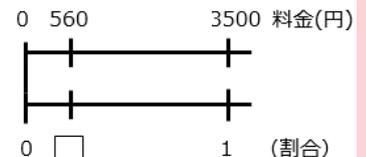
◆ 基準量を 100 として、それに対する大きさを割合で表す方法が百分率 (パーセント) です。日常生活の場面で百分率を用いる活動を通して、その意味を理解できるように指導しましょう。

解答類型 6

$\frac{3500}{560}$  → 反応率 6.5%

→ 分母にする数と分子にする数を逆にしており、基準量と比較量を捉えることができていない

◆ 基準量(A)に対する比較量(B)の割合は  $B \div A$  です。指導のときに、数直線図や比例式を用いて確認させましょう。



3500 を 1 とみたときの値を求めればよいので  
 $560 : 3500 = x : 1$      $x = \frac{560}{3500}$

★ 対応ワークシート

三重の学-Viva!! セット第 9 弾

「資料から特徴を見つけてみよう (読書週間)」

## \* 効果的な少人数指導の実施にむけて \*

教育を取り巻く課題が多岐にわたり、子どもたち一人ひとりの特性や課題に応じたきめ細かな指導が必要となっている中で、子どもたちに確かな学力や豊かな心を育てていくため、少人数教育（少人数指導・少人数学級）の取組を進めています。

三重県教育委員会では、平成30年度は小学校算数と中学校数学で加配定数を活用して少人数指導を行う学年のうち、70%で主として習熟度別指導が実施されるよう取組を進めています。

### (1) 効果的で適切な少人数指導を進めるために

三重県教育委員会では、少人数指導が各学校や児童生徒の実情に応じて一層効果的で適切に推進されるよう、「効果的な少人数指導 推進ガイドブック」を作成しました。このガイドブックは、「平成28年度、29年度 わかる授業促進事業」の実践推進校における2年間の少人数指導の研究で得られた効果と課題、留意事項をふまえ、少人数指導のポイントや取組例などをまとめました。

ガイドブックでは、習熟度別指導について、年間計画や単元計画への適切な位置付け、授業における効果的な活用場面の取組例など示していますので、各学校における少人数指導の参考にしてください。

「効果的な少人数指導 推進ガイドブック」を活用し、児童生徒の発達段階や習熟の程度に応じた**学習集団の編成**や、少人数指導を効果的に進めるための**指導方法、授業づくり**について研修します。



詳しくは  
三重県総合教育センターの  
HP をご覧ください！

日時 : 8月24日(金) 13:30~16:30  
 内容 : 講義「少人数指導の充実に向けた授業づくり」  
 実践報告「自ら学ぶ『確かな学力』の定着を図る」  
 東員町立神田小学校 & 鈴鹿市立明生小学校  
 情報共有  
 場所 : 三重県総合教育センター 第4講義室 (定員40名)

研修講座の  
ご案内

### (2) 平成29年度の効果的な少人数指導の活用状況（習熟度別指導報告事例）

#### 小学校

プレテスト結果と本人の希望をもとに習熟度別指導を行いました。どの子も授業の中で「わからない」と意思表示をすることができ、落ち着いて学習ができました。こうした中、子どもの学習意欲が高まってきた、基礎学力の定着につながりました。特に算数科の四則計算の学習を行う際に改善が見られました。

#### 中学校

2、3年生の英語と数学において習熟度別指導を行いました。個に応じたきめ細かな学習を実現し、基礎学力が定着しました。例えば、2年生の数学科の一次関数の分野ではグラフの描き方や式の求め方など生徒に個別指導を行うことができ、ほとんどの生徒がグラフの描き方を覚えるなど学習の定着が見られました。

#### 授業や学校生活で認められる児童生徒の変容

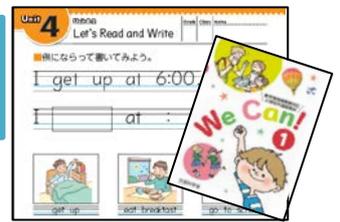
「児童生徒の変容」について、「とてもそう思う、そう思う、あまりそう思わない、そう思わない、わからない」の選択肢から、「とてもそう思う、そう思う」と回答した学校の割合は以下のとおりです。ほとんどの学校で改善が見られました。今後も効果的な取組を進めていきましょう。

| 項目                    | 小学校(217校) |       | 中学校(124校) |       |
|-----------------------|-----------|-------|-----------|-------|
|                       | とてもそう思う   | そう思う  | とてもそう思う   | そう思う  |
| 落ち着いた学校生活の実現          | 60.4%     | 39.2% | 59.7%     | 40.3% |
| 授業につまずく児童生徒の減少        | 50.2%     | 49.8% | 38.7%     | 59.7% |
| 発言・発表機会の増加、授業への積極的な参加 | 59.4%     | 38.7% | 58.9%     | 40.3% |
| 学習意欲の向上               | 49.8%     | 49.3% | 42.7%     | 56.5% |
| 基本的な生活習慣の定着           | 30.9%     | 65.0% | 24.2%     | 71.0% |

平成29年度定数等活用状況調査の結果より

# 新学習指導要領がめざす小学校外国語教育 ～子どもが学習したことをいつでも使えることを目指して～

移行期間が始まり、各小学校で、移行措置として新学習指導要領全面実施に向けた取組が始まりました。取組を進めるにあたり、各学年の目標や内容に合わせた授業づくりが大切です。



※ワークシート（文部科学省作成）

| 小学校外国語活動（中学年）  | 小学校外国語（高学年）   |
|--|---|
| <b>目標</b><br>外国語を用いたコミュニケーションを図る <b>素地</b> となる資質・能力の育成     | <b>目標</b><br>外国語を用いたコミュニケーションを図る <b>基礎</b> となる資質・能力の育成  |
| ○「聞くこと」「話すこと」の <b>2技能</b> を扱う<br>○ 外国語に <b>慣れ親しませる</b><br> | ○「聞くこと」「話すこと」及び「読むこと」「書くこと」の <b>4技能</b> を扱う<br>○「聞くこと」「話すこと」は <b>定着</b> を図る<br>※目的・場面・状況に応じて学習したことをいつでも使えることを目指します。<br>○「読むこと」「書くこと」は <b>慣れ親しませる</b> ただし、 <b>活字体</b> については、 <b>定着</b> を図る |

**確認！**

## 新学習指導要領における「書くこと」の目標

（高学年外国語）  
 「書き写すことができるようにする」「**例文を参考に、～書くことができるようにする**」



「例文の1カ所だけを選んで書く」などができるようにします。中学校のように「自分で文をつくり出す」取組とは違います。

※特に「読むこと」「書くこと」について、中学校との違いを理解しておきましょう！！

## 校内研修の取組～まずは先生同士で！～



### ① 指導案を活用した模擬授業

文部科学省ホームページに指導案例が掲載されています。その指導案を活用した模擬授業を行い、いろいろな意見を出し合い、授業に活かしていきましょう！

音声データが YouTube MEXT チャンネルに掲載されています。

### ② Small Talk

研修ガイドブック(実習編 P130)を参考に実際に英語でやり取りを行ってみましょう！

- Point**
- 5年生は、先生の話の聞いたり、**先生と児童のやり取り**をしたりすることが中心。
  - 6年生は、5年生からステップ・アップし、**ペアで伝え合う**ことが中心。

### ③ クラスルーム・イングリッシュ

研修ガイドブック（実習編 P118）を参考に実際に英語でやり取りを行い、一つずつ使えるクラスルーム・イングリッシュを増やしていきましょう！

## H30年度 県の研修（一部紹介）

- 「**三重の英語教育改革加速事業**」  
 （11月～2月）  
 亀山市・津市・紀北町のモデル校で新教材等を活用した公開授業を行います。
- 「**小学校教師のための英語力・指導力向上研修**」  
 （8月2日、10日）  
 高学年用新教材使った演習をとおして、英語力と授業指導力の向上を図ります。
- 「**英語授業力向上研修3**」（11月26日）  
 松阪市で公開授業を行います。

**ぜひ、御参加ください！！**

## 市町教育支援・人事監から

### メッセージ

## 子どもたちの笑顔が、私たち教職員の笑顔に

市町教育支援・人事監 松田 誠

毎年5月中旬から、市町教育支援・人事担当で、伊賀地域の小中学校を訪問しています。

訪問時、各小中学校では、自校採点から状況を把握・分析するなど、その結果から見られた課題に対応し、授業改善が行われていました。そこで、校長先生から各学校の状況や実態に応じた取組として、全国学力・学習状況調査「解説資料」の学習指導要領における領域・内容などを参考にして、調査対象学年以外の学年で朝の学習や小テスト、宿題を利用し、授業や指導改善のための分析や取組を進めていることや校長先生の授業の見回りの様子なども伺いました。

また、新規採用者や経験の浅い教員の授業を中心に参観し、その後、時には悩みを聞いたり、アドバイスをしたりしています。若手教員の方々は、普段あまり自分を上手く表現できない子が、授業中、小声で「できた」と小さなガッツポーズを見せたり、授業後、笑顔で「わかった」と言いながら走り寄ってきたりする子に癒されていることや、家庭訪問で学校生活だけでは分からない経済的な理由や家庭の事情を知り、子どもへの声のかけ方も変わり、子どもの学習への向き合い方が変容してきた姿を笑顔で話してくれました。

子どもたちの笑顔が、子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高め、学力の向上に繋がります。また、それらのことが、私たち教職員の働き方ややりがいにも繋がっていくのではないのでしょうか。